発行：豊田市

「第1回足助地区全体の教育環境を考えるワークショップ」 意見要旨

◆第1回全体ワークショップの概要

開催日時	令和8年9月27日(日)午後1時から4時
会場	足助支所　会議室
内容	• 事務局からの説明（全体ワークショップの趣旨・目的、現状、検討内容等） • グループ討議・発表

◆グループ討議のテーマ

(1) 全体ワークショップの進め方についてご質問はありますか？
(2) 学校再編を通じて足助地区全体で解決したい課題、配慮すべきことは何ですか？
(3) 再編後の学校はどんな学校が良いと思いますか？
また、そのアイデアを実現するためには、どのような再編が必要と思いますか？

(1) 全体ワークショップの進め方に関する主な意見

◆進め方

＜説明内容の理解＞

■「進め方とスケジュール」や「全体ワークショップの進め方」は概ね理解できた。全体ワークショップの各ステップがどう進められるかはイメージしきれていないが、わからないことはその都度質問して把握していきたい。

＜意見反映＞

■ 地域別ワークショップの発表まとめ資料が配布されたが、出された意見が全体ワークショップにもつながるように、意見内容を踏まえて話し合いができると良かった。地域別では子どもたちの参加もあったが資料には反映されていないので、子どもの意見も大切にしてほしい。

＜情報提供・収集＞

■ 公共施設だけではなく、駅やスーパー等、一般の人が集まる場所でオープンハウスを開催したり、意見入力フォームを設置してHPでも意見を収集するなど、学校再編について多くの人に知ってもらい、幅広い層から意見を聞けるような工夫をしてほしい。

＜検討のスピード＞

■ 現状で児童数が少なく待ったなしの状況なので、統合しかないという思いがある。進め方やスケジュールを早く示してもらい、通学や学習、生活環境など、具体的なことを話す段階に入りたい。何年先にどうできるかを地域の人に伝えたい。

◆参加者

＜参加者属性＞

■ 若い世代、女性、当事者であるこれから小学校に入学する子どものいる親が全体ワークショップのメンバーには少ない。そういう人達の意見を聞く必要があるのではないか。在校生の親には、通っているからこそわかることがあると思うので、その観点から話をしていきたい。

■ 最終回は年度をまたいでしまうが、役職として参加していると出ることができないのか。この問題に関心があるので、役職を離れても継続して参加したい。

◆その他（質問）

＜小中一貫校＞

■ 小中一貫校にすることを前提として、学校再編を検討するのか。決まっているなら、統合に向けた道筋もそれに合わせて変わると思うので確認したい。

＜クラスの適正人数＞

■ 小学校での1クラスの適正人数はあるのか。適正人数や統合することになる児童数のラインがあるのなら、示してもらった上で検討を進められると良い。

(2) 学校再編を通じて足助地区全体で解決したい課題、配慮すべきことに関する主な意見

◆通学環境

＜スクールバス導入・安全安心＞

- 再編によって通学距離が長くなった地域が不便にならないように、スクールバスを導入することは必須条件だと思う。
- 登校時は現状の中学校のバスの運行と同様で問題ないが、学年によって下校時刻が異なるので、子どもを学校等で預かってもらう仕組みや、バスの便数を増やすなどの対策が必要だ。
- スクールバス通学になれば、登下校時間が削減され、交通事故の危険性が減って安全性が担保されると思う。
- スクールバスがあっても、バス停まで遠いと、危険なので歩かせることができず親の負担が増える。安全安心に登下校できるように自宅付近までバスが来てくれると良い。
- 道路が狭い地域が多いので運行の安全性が求められる。自動運転の導入やドライバーの質の維持などにより、安全性を確保してほしい。
- これまでも落石や倒木、獣害などがあるので、スクールバスでの通学路は災害の心配の無い道にしてほしい。

＜送迎負担・通学時間＞

- スクールバスによる親の送迎の負担の軽減を期待したい。道路整備も併せて行い、よりよい通学環境を整えてほしい。親の負担が大きくなると、地域外に流出してしまうおそれもある。
- 長時間のバス通学はトイレ等で児童への負担が大きいため、できるだけバス乗車時間が短くなると良い。特に紅葉の時期は渋滞が心配なので、車の流入規制をするなど地区内の渋滞対策をしてほしい。

＜その他配慮事項＞

- 小学1年生が１人でバスに乗れるよう配慮してほしい。
- 通学用のスクールバスを充実させるだけでなく、学童用バスの導入も必要だ。そうしないと学童に通わせられないと考える保護者が増えるだろう。
- 車での送迎だと子どもが外を歩かないので体力がつかない。子どもの体力がつくような何らかの取組ができると良い。
- 小規模特認校は、地区外からの通学は親が責任を持つことになっているが、地区外にもスクールバスを運行できれば、再編後の学校に地区外から通う子どもが増えて児童数が増えるのではないか。
- 学校の再編により、一部の地域の人だけ遠距離通学になったり、人口の流出が加速するなど負担が偏らないようにしてほしい。

◆教育環境・学校生活

- このままでは足助中学校も存続が危ぶまれると思うが、小学校が再編されることでその危険性がなくなると良い。
- 統合によって1学年の人数が増えれば、友達が増えて、いろいろな意見を持つ友達がいることが発見できる。

◆地域間の関係性

＜関係性の改善・地域間交流＞

- 足助地区の各地域にはそれぞれの面白さや特色があると思うが、現状ではお互いの地域に関心がなく、それぞれで活動しているように思える。再編されることで、子どもも親も他の地域のことを知る機会ができ、「広い範囲での足助」や「中心部だけでない足助の多様性」を知ることができるのではないか。
- 人手不足で祭りの継続が危ぶまれる地域もある。再編を機に、学校として子どもや保護者が他地域のお祭りに参加したり、手伝いができるような仕組みができないだろうか。
- 学校だけ集約しても足助地区内の交流は生まれないと思うので、公共施設も1か所に集約し、多様な交流が生まれると良い。

◆子育て環境

＜居場所＞

- 放課後の子どもたちの居場所がない。学童に通えない小学生や中学生が、学校が終わった後に安心して過ごすことができる居場所を整備してほしい。交流館を使っている子もいるが、交流館以外にも市の職員が常駐して見守ってもらえる公共施設や外で遊ぶことができる公園があると良い。
- 習い事や子どもが遊ぶ場所が少なく、点在しているため不便だ。異年齢の兄弟間で、下の子が遊んで上の子が勉強しているといったことが近くでできると、親の負担も減るので、集約できると良い。

＜移住・定住＞

- 再編にあわせてまちづくりに取り組まないと移住者や定住者は増えないと思う。足助地区の課題である子どもの居場所づくりや、インフラ整備などにも取り組み、子育てしやすい足助地区にしていきたい。

◆まちづくり

＜インフラ整備＞

- 小学校の再編にあわせてインフラ等の整備をしてほしい。通学の足を確保するだけでなく、地区内の足の問題も解決できると良い。浸水や崖崩れする箇所があるので、通学の安全性確保のためにも道路整備を合わせて考える必要がある。安全性確保の面では、緊急時のことを考えてどこでも携帯電話がつながるようにしてほしい。

＜人口増加＞

- 足助地区全体で解決したい課題というと「人口の増加」と考えてしまうが、それはまちづくりの問題だろう。まちづくりと学校再編とのつながり方が良く見えない。
- 10代、20代が足助をSNS等で宣伝してくれると、来訪者や移住者が増えるのではないか。そのためにも郷土学習が大切だ。

＜その他＞

- 公共施設や学校の再編に合わせて、地域の高齢者が子どもを見守るなど就労の場をつくることができると良い。
- 農業、観光等、地域の産業の後継者が不足しているが、地元の努力だけでは限界があるので、行政からの支援が必要だ。
- 空き家や空き地が増えており、これらの活用が課題だ。
- 地域の学校を維持するために努力してきたので、地域から学校が無くなるのは悔しい。
- いずれは消滅集落になっていく可能性が高く、人口は自然に中心に集まってしまうのではないかと感じている。

(3) 再編後の学校はどんな学校が良いか、またそのアイデアを実現するために必要なことに関する主な意見

◆再編の方向性

＜実現までの期間＞

- 新校舎を作るなど、再編後の学校について夢を語るのも良いが、児童数が減って来年度からどうするという状況の学校もあるので、それを踏まえて早期に再編を進めてほしい。
- 地域によって求める再編のスピード感が異なると思う。校舎も新しく、まだすぐにという状況ではない学校は、本当に必要になってから再編すれば良い。

＜一貫教育＞

- もみじこども園には足助地区外から登園している人も多く、定員いっぱいとなっている。地区外の園児が引き続き足助で就学してくれるように、小中一貫やこども園・小・中・高と一貫した教育ができると良い。
- 小中一貫教育を目指すのならば、これを機に小中一貫校を新築するのが、子どもたちにとって良いと思う。子育てしやすい足助地区としてのアピールポイントにもつながる。それを前提にして、再編回数を増やさない方向で考えてほしい。
- 小中一貫校に向けて、段階的に小学校を統合していく方法もありそうだ。
- 小中一貫教育のイメージが分からないが、やるならしっかりやってほしい。

＜再編回数＞

- 今後5～20年後を考えた時に、本当に児童の減少傾向がより一層進むのであれば、今から1校にする方針を掲げて進めたほうが、子どもたちの成長や教育のためには良いのではないか。
- 最終的に1校を目指すのならば、段階的ではなく一度に再編を終わらせてほしい。徐々に学校を減らすという考え方は、児童、保護者、地域にとっての負担を考えると避けたい。その方向性を掲げてまちづくりにも取り組む方が、明るく未来を考えられるし、足助のアピールにもつながるので定住者、移住者も増えると思う。

＜再編に向けたステップ＞

- 再編のスケジュールを決め、それを見据えて子どもたちがスムーズに馴染めるステップをつくることが必要だと思う。入学後に途中から環境が変わった際に心のケアをする、知らない人の中に入るのが苦手な子のために再編前に顔見知りを作る機会を設けるなどの配慮をしてほしい。
- こども園で一緒だった子と小学校でバラバラになって、中学校で再会ということがこれまでもあった。就学前から交流があれば、小学校の途中で再編があっても児童が孤立感や不安を感じることは減るのではないか。
- 現況でも行っている集合学習を普段の授業でも実施して回数を増やし、再編前に顔がわかる関係を築けると良い。10の小学校を満遍なく訪問する機会があれば、地域の文化に興味を持つきっかけにもなるのではないか。

＜立地＞

- 子どもたちにとって安全に通学ができ、学校の教育上も良い影響を与える地域に配置してほしい。これが正解というのは難しいが、隣の地区といっても地理的制約があり、山を越えないと行けないような場所がある点も考慮してもらいたい。
- 親は豊田の市街地の方へ行くのに、別方向の地域の小学校へ再編されると、親にとって負担がある。親の生活ルートと児童が通学するルートが同じだと良い。
- 足助地区全体の魅力を新たに発信し、移住者を増やすという観点から考えると、新しい学校を作ってはどうか。10小学校区の住民や児童にとっての公平性を考えても、どこかの地域の学校に集めるよりも、新しい場所に作る方が良いと思う。例えば、足助もみじこども園近くの広いスペースを活用できないだろうか。
- どこかの校舎を残すという考え方ならば、校舎が新しく、きれいな学校に統合するのが良いのではないか。
- 一極集中ではなく、足助町合併前の1町３村でそれぞれ１か所ずつ学校を編成してはどうか。
- 各学校に統合したい学校を聞き、その結果を受けて、再編までの段階を決めるというのもありえるのではないか。

◆学校生活

■ 先生と遊べる、先生と子どもがコミュニケーションを取れるという少人数環境の良さを維持してほしい。今の学校に居る先生が一緒に移ることができれば環境のギャップが少なくなり、環境の変化にしり込みする子どもが新しい学校に行きたくなるのではないか。

◆教育環境

＜少人数教育＞

■ 少人数だとマンツーマンなので取り残されにくく、しっかりと教えてもらえるため学習面は良いのだが、心の成長面ではどうかと思う点もある。プラス面だけではないので、一概に少人数が良いとも言えないところがある。

■ いきなり大人数の環境になるのもどうかと思う。少人数の良さは残しつつ、協調性、集団性は身につけられるように、1クラスの人数は通常より少なくすることはできないか。例えば、30人いたら15人×2クラスになると良い。

■ 同級生が増えるのは良いが、多すぎると先生との距離ができたり、環境の変化が大きすぎてストレスになる。1クラスの人数は現在とあまり変わらないようにしてほしい。5～10人ぐらいなら、自分と異なる意見を聞く機会はできるだろう。1クラス15人もいたら多すぎる。

■ 小規模学級にならなくても、複数担任制で先生の目が届くような学級にしてほしい。目が行き届くことが、街の小学校との差別化になる。

■ 再編後に複式学級が発生する事態は避けてほしい。

＜各小学校の特性＞

■ 動物飼育、自校でのプールなど、今ある各小学校の良いところ、特性を存続してもらえる再編が望まれる。深く思い出に残る教育は残したい。

＜郷土学習＞

■ 各地域の文化や行事を継承し、郷土愛が育まれるように、農業体験や地域の祭りへの参加などの郷土学習を増やしてほしい。自分の地域以外の文化を学び、各地域のイベントに参加することで、愛着が生まれてUターンする子どもが増えるのではないか。

◆施設

■ 再編して新しい学校を作るのであれば、足助地区の木材を活用することで森や山の良さが感じられるようにしたり、開放的なワンフロア形式にする、広い運動場を確保するなど、地域の良さを伝えられる学校にできると良い。

◆跡地活用

＜活用の検討＞

■ 再編後に跡地が荒れて治安が悪くなってしまうことが心配だ。再編とセットで跡地活用を考え、地域の中核としての存在を残したり、活用できない場合は更地にして安全性を担保するなどしてほしい。

＜校舎活用＞

■ すでに空き教室を防災倉庫や集会場に使っている地域もあるので、公共施設としての小学校は無くしたくない。比較的新しい校舎は、バリアフリーになっているので老人ホームや市の施設などにもできるし、避難所やイベント会場としての活用も考えられる。建物の状況や地域の実情に応じた跡地利用をしてほしい。

◆その他

■ 学校の再編に合わせて、学校の特別教室を地域住民に開放するなど、公共施設としても活用することで費用が節約できると良い。

■ 大人も学ぶことができる学校になってほしい。以前受けた避難所運営の授業が良かったので、大人も勉強したいと思った。